

日本の社会保障の現状と流れ

日本の国家予算のうち社会保障費は、国家予算全体100兆円（今年度97兆円、来年は100兆円超）の3分の1を使っています。

4分の1は過去の借金返済です。この2つを合わせただけで半分以上の6割を使っていることとなります。しかも社会保障費はこれからも伸びていきます。

社会保障費の36%は年金です。医療費は36%、介護費は9%、福祉関係9%です。医療+介護合わせて45%で社会保障費の半分近くですがこれは今後も伸びていきます。

医療+介護については、国が支払う費用が増えるということは国民の自己負担も増えていくということです。これは公助・共助・互助・自助のうち共助で保険制度ですので、見方を変えると大きな産業になっていくということでもあります。

そのために社会も大きく変わろうとしています。

国の方針も人生50年時代から人生100年時代に入って考え方を大きく変えようとしています。

今までも「1億総活躍社会」「女性活躍社会」などのキャッチフレーズが出て来ておりましたが、最近さらには大きな枠で「人づくり革命」「全世代型社会保障政策」等の言葉に変わってきております。具体的には子供教育費の無償化や高等教育費の支援、低所得者や社会的弱者の救済、社会保障政策は高齢者中心から全世代型に見直すということなどです。

既得権を守ろうと様々な目先の利害が組み合わされて骨抜きにならないように私たち国民は見定める義務があります。

私達は法治国家に暮らしておりますので決められたルールは守らなければなりません。ICTを利用した死亡診断書等ガイドラインもつい最近できて死亡診断書の書き方も少し変わりました。その他、衆議院選挙が急遽決まって、教育国債、教育無償化、高等教育の負担軽減、こども保険（小泉進次郎）、なども言われ始めています。

いずれにしても理想は、ゆりかごから墓場まで、というかつて言われた国民誰でも安心そして安全に生活できる社会ではないでしょうか。

私達のお仕事もその社会の在り方の一端を担っております。

前向きに自主的に業務に当たっていきましょう。

老人保健施設一羊館の理念

利用者の方々すべてに尊厳・安心・満足を！

一羊館の行動指針

私たちは、保健・医療・福祉の架け橋のプロに徹します。

私たちは、利用者のQOL・職員のQOL・健全経営の3立を目指します。

私たちは、質向上のために日々の小さな工夫を忘れません。

